

4 教育の充実したまちづくり（教育）

4-1 いなべの教育

平成15年度の学習到達度調査（PISA）や第3回国際数学・理科教育調査（TIMSS）で子どもの「読解力の低下」、「数学・理科嫌い」の進行が発表されました。「学びからの逃走」や「家庭学習時間の減少」の問題と併せて、学力向上は重要な教育課題です。恵まれた自然と保護者や地域の人々と共に育む「いなべの教育」を継承するためにも、学力向上と学び舎の整備は重要不可欠です。

平成17年度から藤原の小中学校で行っている学力フォローアップ推進事業を、平成18年度から市内全域へ広げて実施します。4月の学力調査で、学習上の弱い部分を把握し、小数の割り算が弱いクラスには指導方法を工夫するなど、日々の授業づくりに活用していきます。また、翌年3月にも学力調査を行い、工夫した授業づくりが効果的であったかを分析し、「どうすれば学力が向上するか。」という教育課題に取り組んでいます。

さらに平成18年度は、教職員の資質・指導力向上と家庭学習の充実を目的とした「いなべ市教育研究所」を開設します。本研究所では、教職員を対象とした研修や、家庭学習に悩みを持つ保護者のための教育相談などを実施するとともに、教育課題の調査や研究を行います。

平成18年度の校舎整備は、藤原中学校の環境整備、笠間小学校校舎と中里小学校体育館の耐震補強工事、員弁東小学校と立田小学校のアスベスト撤去工事を実施します。員弁西小学校の建て替えにつきましては、員弁西保育園の移転後、すみやかに着工できるよう準備を進めます。

北勢中学校、員弁中学校の学校給食は、平成17年度に実施したアンケートを分析し、実施に向けた議論を深めます。

4-2 自然学習の充実

市民の心の豊かさ、満足感をもたらすものの1つが自然です。総合計画策定のための市民アンケートによると、「本市の誇り・魅力」の第1位は「自然環境」（82.1%）でした。

本市は豊かな自然に恵まれ、フクジュソウやクマタカなど貴重な稀少動植物が137種も生息しています。市では引き続き、専門家と協働し、貴重な稀少動植物の保存に努めるとともに、データの収集・整理を

図っていきます。また、宇賀川の大安庁舎対岸に完成する「(仮称)水辺の自然学習園」では、ガラス越しに川の様子が観察できるようになり、四季を通じた自然学習の場としてご利用いただけます。

4-3 生涯学習の拡充

本市には、刻限日影石、篠立の風穴、下野尻春日神社奉納獅子舞など25もの貴重な指定文化財が登録されており、市民文化の高揚と併せて、これらの保存に努めます。

趣味、娯楽にとどまることなく、自己の教養を高めるためのIT講習、短期生涯学習講座等を開設し、文化教養の習得に向けたきっかけ作りを進めます。また、市民文化の中核を担う「いなべ市文化協会」の設立を支援していきます。

ご要望の多かった図書検索システムを構築し、ご自宅から市内図書館の蔵書の検索・予約ができるよう整備を進め、図書館の利用を促進します。

4-4 スポーツ振興

本年は、トリノオリンピック、ワールドベースボールクラシックやサッカーワールドカップドイツ大会などスポーツの話題には事欠かない「スポーツの年」です。本市のスポーツ施設も多くの方にご利用いただき、多くの市民の方がスポーツを通じ、人生を楽しみ、健康づくり、交流の輪を深めておられます。

いなべ市体育協会は、合併後、いち早く統合され自主運営されています。平成18年度はスポーツ指導者連絡協議会、いなべ市グランドゴルフ協会およびスポーツ少年団が体育協会に加盟され、ますますスポーツ分野の総合調整や交流が盛んになるものと期待を寄せています。

しかし、グランドや体育館などのスポーツ施設の数、同規模の市の2倍もあり、その維持管理に1億3千万円もの莫大な経費を計上しています。今後は、指定管理者制度の導入や借地施設の返還など施設の統廃合を検討し、維持管理の効率化、適正化に努めます。



学童野球 入場行進の様子